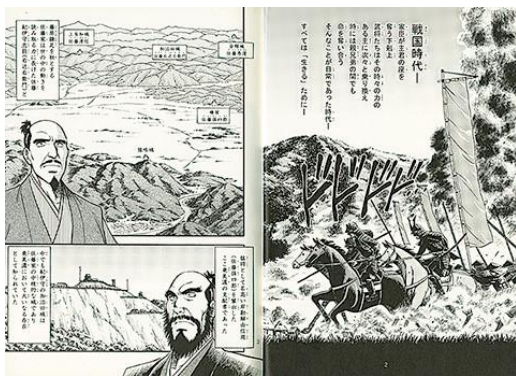


今回は、郷土の戦国武将・斎藤新五を主人公とした漫画制作の報告です。

◇ 本校文芸部・地域研究部が、企画段階から参加することになりました！

5年前、富加町教育委員会は、郷土の戦国時代を舞台とした歴史漫画「夕雲の城」「猿啄の春」を発刊しました（下写真）。この事業は「みのかも定住自立圏」構想のイベントとして行われたものであり、完成した漫画は、富加町・美濃加茂市・坂祝町の小中学生に配付されました。このたび、その第3弾「斎藤新五利治」の制作が決定し、本校文芸部・地域研究部が、企画段階から参加しています。メンバーには、小学生の頃に「夕雲の城」を読んだ生徒も複数加わっています。

主人公の斎藤新五利治は第2代加治田城主で、織田信長の馬廻り衆（親衛隊）を務めた人物です。美濃出身であり斎藤道三の一族であったことでも知られています（末子説が有力）。



日本史教科書にも掲載されている姉川の戦い、石山合戦、伊勢長島一向一揆、中国攻めなどの戦いに従軍し、最後は本能寺の変で討死を遂げました。織田家の家臣の中でも重要な役割を果たしているにも関わらず、地元の岐阜県ではそれほど知られていません。

富加町を中心とした中濃地域には、斎藤新五ゆかりの史跡や文化財が多数あります。文芸部・地域研究部合同チームのメンバーは、今回の歴史漫画発刊を機に郷土史への関心が一層高まるよう、様々な企画に熱心に参加しています。

◇ 富加町内フィールドワーク & ミーティング 2022/5/15

午前 富加町郷土資料館集合 清水寺十一面観音拝観後、加治田城踏査。

午後 龍福寺にて、墓碑・紀伊守肖像画・斎藤新五裏判・位牌調査。

漫画家の渡辺浩行先生を囲んでのミーティング。

- ・渡辺先生から漫画の構想についての話
- ・感想や疑問点、漫画制作や今後の活用に向けての意見交換
- ・YouTube用動画の撮影、町広報誌の取材

いつもお世話になっている島田崇正さん（富加町文化財専門官）が史跡案内をしてくださいました（左写真）。堅堀・切岸・虎口など、嚴重に固められた加治田城の遺構、佐藤紀伊守の肖像画や斎藤新五自筆の書状、紀伊守父娘の墓石など、大切に守られた文化財の数々には、ホンモノのもつ魅力があります。この素晴らしさを伝えるためには、どのような方法が有効か。踏査の終わったあと、一同で意見を出し合いました。

漫画家の渡辺先生からは「関高生に月岡野の戦いのシナリオ作りを任せたい」と、突然の提案が寄せられました。仰天しながらも生徒たちは即座に「やります」との返答。古文書や研究書を読みながら史実を見極め、史実と史実の間を創作で埋める共同作業が始まることになりました。



◇ 富加町「郷土の偉人マンガ制作活用プロジェクト」会議 2022/7/13

関高生4名（文芸部員2名・地域研究部員2名）が、富加町教育委員会からご指名をいただき、「郷土の偉人マンガ制作活用プロジェクト」会議に参加しました（会議の様子、下写真）。冒頭、今回の制作事業がB&G財団からの補助を受けて行うものであることや、郷土の偉人の顕彰事業であることに関する説明がありました。

漫画家の渡辺浩行先生、木曾川下り復活プロジェクトでお世話になっている水口晶さん（アースシップ代表）、歴史小説「堂洞の人質」の作者中島真也さん、富加町の関係者の皆様方（文化財審議会・社会教育委員会・文化遺産活用協議会・教育委員会）が多数参加される中、自分たちの考えをはっきりと伝える高校生の姿が印象的でした。



◇ 富山フィールドワーク ～斎藤新五・越中攻めの足跡を訪ねて～ 2022/7/28

富加町教育委員会の企画で、斎藤新五の越中攻めをテーマとしたフィールドワークに参加しました。1日かけて、富山城、大泉城、太田本郷城、津毛城、月岡野古戦場推定地、江馬氏居館跡をまわりました。

天正6（1578）年、上杉謙信が死去すると、織田信長はこの機を逃さず越中攻略をめざします。まずは神保長住を越中に送り込み、攻め手の大将として送り込まれたのは、加治田城主の斎藤新五でした。新五の侵攻ルートに関する細かな記録は残されていませんが、当時の状況から考えて、加治田から飛騨街道を北上し、今日の国道41号線沿いのルートをとったものと思われます。



まずは富山城の郷土博物館を訪ね、学芸員で中世史家の萩原大輔さんから、織田軍の越中攻めや斎藤新五の果たした役割について説明していただきました（富山城石垣解説の様子、左写真）。

続いて、富山市街地から南に下った大泉城跡を訪ねました。大泉城は、上杉方の武将、河田長親が立て籠もったことで知られる城で、合戦の際に城下が焼き払われたと伝えられています。

大泉城から南に下った太田本郷城を拠点とした斎藤新五は、さらに南に位置する津毛（つげ）城の神保長住とともに、上杉勢に大打撃を与えたことが史書に記されています。

今回、富山市埋蔵文化財センターの堀内大介さんに、太田本郷城や津毛城、月岡野古戦場推定地を案内していただきました。実際に現地を歩いてみると、古文書や史書に現れる合戦の様子が目に浮かびます。

今回のフィールドワークでそれぞれが感じたこと、考えたことを参加者全員で共有し、8月中旬に「月岡野の戦い」のシナリオを執筆し、渡辺先生に提出する予定です。

